

第 11 回

市民活動サポートセンター
事業運営協議会

平成16年7月1日（木）

札幌エルプラザ 2階 第3会議室

札幌市市民活動促進担当課

1. 開 会

○事務局 それでは、定刻を過ぎておりますし、定足数である5名以上の委員さんがそろっておりますので、第11回市民活動サポートセンター事業運営協議会を開催したいと思います。

2. 議 事

○事務局 それでは、これから議事に入りたいと思いますが、以降は岩見コーディネーターによりしくお願いいたします。

○岩見コーディネーター まだ田村委員が見えられていませんが、会議を進めさせていただきます。

第1回協議会は平成14年8月28日ということですから、ちょうど2年前になりますが、既にご案内のとおり、きょうは第1期協議会の最終回になります。

今日は、大きく分けて二つの議題があります。一つは、市の方から今年度の事業計画が出ております。これを、事務局よりジャンル別に説明していただいて、我々の意見とか要望を出していこうということです。それからもう一つは、過去2年間、ちょうどこのセンターの立ち上がりなどでいろいろご苦勞をいただきましたけれども、過去2年間をお一人ずつ総括していただいて、次の第2期の協議会につないでいかなければいけませんので、そこら辺の意見とか要望を出していただくという形で進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それではまず、今年度の事業につきまして、事務局の方から個別に説明していただきたいと思っております。

○事務局 まず、配付資料の確認をさせていただきますと思っております。

一番上から、次第が1枚あります。次に、「平成16年度市民活動サポートセンター事業」と書かれました、A4で3枚がホチキスどめされているものが1部。続きまして、A4で「平成16年度市民活動サポート研修・学習事業」と書かれた表が1枚。「NPO運営の収入確保術入門」と書かれた表が載っているものが1枚。それから、アンケート結果の表とアンケート用紙。「さっぽろ元気NPOサポートローン」というブルーのパンフレットが1部。今までの運営協議会の開催経過を載せましたA4の紙が2枚。それから、A3の4枚で、市民活動団体支援、情報収集提供、相談交流活動支援、最後に研修学習の表がそれぞれ1枚です。

以上で配付資料の確認を終わります。

○事務局 引き続き、各機能ごとにご説明をしていきたいと思っております。

今年度事業を説明するに当たって、これまでの概況とあわせて説明した方がイメージがわくと思っておりますので、A3の資料と「平成16年度市民活動サポートセンター事業」の両方をごらんいただきたいと思っております。

それから、今回は市民活動サポートセンター事業運営協議会の開催経過を書かせていただきました。それを踏まえまして、A3の概況をごらんいただきたいと思っておりますが、開設

時には登録団体が640団体ありまして、今は既に1,000団体を超過しております。それから、利用者も、当初は見学を除くと1,800くらいだったのですが、今は4,100ということで、今は会議コーナーや印刷コーナーもとるのが大変な状態です。これは、本当に皆様方のご協力によるものと思っております。

○事務局 それでは、各機能ごとに平成15年度の実施状況と16年度の事業の予定を踏まえながらお話しさせていただきたいと思っております。

市民活動団体支援ということで、主に設備での支援ということになりますが、一つ一つご説明していきたいと思っております。

まず、事務ブースです。今までは、オープン前の平成15年7月に募集を開始しまして、その後、全部で3回選考をさせていただきまして、その際、協議会委員の方からも選考委員として何名かの方にご参加いただいております。どうもありがとうございます。

その際に、協議会の皆様から出た意見も取り入れておりまして、区画については柔軟に取り扱うということで、全部で19区画あるのですが、4平米を二つ組み合わせて8平米で使ってもらうところもご用意させていただいております。

それから、使用実績を提出してもらおうということで、毎月の活動実績報告ということで、毎日どれくらいの人が入りがあったのか、センター内のどんな施設を利用したのかということ記録していただいたり、3カ月に一度、活動状況実績報告ということで、事務ブースを使ってどのような活動の実績があったのかということを書き出していただいております。

それから、選考に当たりますには、公開ヒアリングを行いまして、自分以外の団体がどのようなヒアリングを行ったのかということを見れるようにし、一般市民の方も自由に見学できるような形も実現しております。

16年度の事務ブースの予定ですが、「平成16年度市民活動サポートセンター事業」の5、団体活動支援機能事業というところをごらんください。

(1)の事務ブースということで、市民活動団体の立ち上げ支援、事業拡大支援等のために事務所を必要とする団体に貸し付ける。

①の企画と数ですが、4平米で19区画分、4平米と8平米のブースをニーズに合わせて提供。②の選考ですが、選考委員会を設置し、活動の公益性、計画性、将来性、事務ブースの必要性などについて総合的に判断して選考。16年度に関しましては、現使用団体の17年度の使用について選考を行うほか、ブースの空き状況によっては適宜選考を行うということです。

若干、情報を提供させていただきますと、6月末で使用をやめられたところが1団体出ました。それから、来月いっぱいまで事務所をほかに持てるようになったので使用をやめたいという申し出があったばかりです。それで、ことしの秋口くらいにもう一度募集をかける予定でございます。

続きまして、(2)のロッカーですが、活動に必要な用紙や事務用品の保管などのため必

要とする団体に貸し付けるということで、大サイズと小サイズをそれぞれ48個、60個ご用意してオープンしました。当初は、センター自体が余り知られていなかったということもありまして、大10個、小6個でスタートしたのですが、6月現在で、大が31個、小が32個借りられていまして、大はほとんど埋まっておりまして、小も半分くらい埋まってきているという状況です。1週間に二、三件の申し込みがあるような状況です。

協議会の皆さんから、ロッカーはA3サイズも入るような形がいいということで、ゆったりとしたものとしております。

それから、レターケースですが、会員同士の連絡などのために設置しております。これも、当初は156個でスタートしまして、最初はロッカーと同じく30個ほどの申し込みしかなかったのですが、6月末現在で174個の使用があります。数がふえているように思われるかもしれませんが、実は3月末で156個がほとんど埋まってしまったものですから、39個の増設をかけております。ほとんど毎日、何らかの申し込みがあるような状態になっております。

サイズに関しても、ご要望により、B4サイズのものが入るということで、専ら、印刷作業室を利用するときには、コピー用紙とか作業道具を入れたり、団体のパンフレットを入れたりしております。あとは、申し出があれば、郵便物とかファクスの取り次ぎサービスも行わせていただいております。

これ以外にも、日々、利用者からの要望にもこたえていくということで、A3の右の方に「利用者からのこんな声も実現しました」とありますが、センター内にご意見箱を置かしまして、その中に入れてもらった意見を取り入れたり、何か要望があれば随時センターの職員が聞き取って、すぐに実現できるものに関してはすぐに実現しております。

例えば、掲示板がいっぱいになったので増やしてほしいという要望がありましたので、会議コーナーの壁まわりにも掲示板を4枚増設しました。それから、印刷作業室に台車が欲しいという要望をもとに台車を用意したり、現在も、随時利用者の声を聞いているところでございます。

それから、登録者数ですが、グラフを見ていただければおわかりのとおり、月に30団体から50団体の登録があり、ほとんど毎日、一、二団体の方が登録されておまして、どんどん伸びていっております。それから、利用者数に関しても、冬に100人くらいの落ち込みがありましたけれども、現在は利用者数がどんどんふえている状態です。センターが徐々に知られてきたのかなというふうに考えております。

以上です。

○岩見コーディネーター それでは、これに関して意見交換をしたいと思えます。

今の概況と市民活動団体支援についての計画と過去の動きについて、何かご意見等はありませんか。

今、この中で事務ブースを使っているのは中島さんのところでしたか。

○中島委員 事務ブースとロッカーとレターケースを使っています。

○岩見コーディネーター 使い心地はどうですか。

○中島委員 月1万円払うのは大変です。最初は大きいところを使っていたのですが、必要がなくなりましたので、小さいところでやっております。あとは、それに張りつく人を確保できればいいなということで、今は当番制で週に1回か2回でやっております。

あそこに不在・在室のマーキングをされているところがありますが、常にいる団体はまだ少ないと思います。週に何回か、交替で出られているようです。

○岩見コーディネーター 交流はどうなのですか。

○中島委員 日常的に通路で顔を合わせたりするので、顔は知っているという人がふえてきております。それで、年に1回、ここの会議室で、プロジェクターや模造紙を使って自分たちの活動発表をするなどの交流会をしています。ただ、今のところ、具体的に一緒にやりましょうということはないですね。

月1万円にもかかわらず、たくさんの方々が使っているということは、それなりによかったのではないかと思います。

○岩見コーディネーター これは、審査の選考委員はだれでしたか。

○表委員 安田委員、田村委員と私です。

最初は認知が低かったということがあると思いますが、今思うと、8平方はどこかでやめて、4平方にしてより多くの団体に使っていただく方がいいのかなと思います。これから徐々に要望がふえてくると思うので、最初に入っていたところが単に知っただけで優先されるということではなくて、より必要性があるところとか、何年かごとに交替して、広く皆さんに使っていただくような仕組みをこれから考えなければいけないと思っています。

それから、初回の選考のときの選考基準が甘かったというか、ルールが行き届いていない面があって、運営に至って苦労されるようなことがありました。ルールを守っていただけないような方がいらっしゃったので、そういう方にどう対処するかということはある程度見越したルールづくりを最初にしておくべきだったという反省があります。

○岩見コーディネーター 最初にそういうことがあったのですね。

ほかにいかがでしょうか。

○中島委員 意見箱に出された意見というのは、それを出してどういう返答が来たかということが常にわかるような状態にした方がいいと思います。その中で実現したものがここにあると思うのですが、そのほかに実現できなかったものについては、掲示板のようなものがあって、こういう意見があり、これに関してはこういうふうに対処しましたということが常にわかるようにしてあげた方がいいのではないかと思います。

当事者は非常によくわかるけれども、ほかの利用団体からどんな意見が出ていて、それをどういうふうに対処したかということにはわからないので、そういうものはもっとオープンに公開した方がいいのではないかと思います。どういう理由でできなかったということですね。

○事務局 それについては、試験的にはやっています。レターケースの一番右端の掲示板に「利用者からの声」というコーナーをつくりました。

○表委員 ロッカーとレターケースがそろそろいっぱいになるということですが、きっとすぐに埋まるだろうと思っていました。それも、どこかである程度循環する仕組みが要るのかなと思います。そうかといって、選考とか使用実績というのでも厳しいと思うので、抽せんというのはどうかなと思っていました。1年とか2年の使用权の抽せんを4ブロックくらいに分けて半年ごとにやるとか、そんなのものでもいいのではないかと考えていました。

○事務局 ロッカー、レターケースは、基本的に1年たった段階で募集数を超えたら抽せんになっているのです。幸いなことに、今のところは募集数に達していませんので大丈夫ですが、来年くらいからは、レターケースは抽せんという事態が発生する可能性があります。

○表委員 こういうものは、団体さんのパワーとか情報量で左右されてくるので、足腰が弱い小さいところほど手が届かないというか、気がついたらパワーのある人に全部ということがあるのです。もちろん、そこは活動が活発だからという面もあるのですが、活動支援で立ち上げをする団体に対しては、公平ということがやさしくない面もあるのです。

○岩見コーディネーター これは、申し込んだところがちゃんと使っているかどうかというチェックはなされているのですか。

○事務局 それが難しいところで、レターケースの年度更新の際に、案内を1カ月前に出しているのですが、なかなか来ないところがあるのです。6月くらいにやっと来て、やはり使いますとか使いませんか、そういうところがあるのです。

○表委員 それは、ただだからではないでしょうか。ただならキープしておこうということがあると思います。

○岩見コーディネーター 多分、これからはそういうところが出てくると思います。そこら辺をどうするかという問題が出てくるでしょうね。

そのほか、いかがですか。

印刷機はどうなのですか。輪転機は順調に埋まっているのですか。今、予約はとれないのでしょうか。やはりふえているのですか。

○事務局 ほとんどフル稼働です。夜は若干減りますが、朝から5時くらいまでフル稼働です。予約がとれないほどではありませんが、当日いきなり来られたら、ちょっと待ってもらう場合があります。

○岩見コーディネーター うちもついにリースにしましたよ。リースは今は結構安いのですよ。月1万ちょっとくらいだと思います。

○表委員 これは、ほかの伸びに比べて会議コーナーが余りふえていないというのは、どういうことですか。

○事務局 これも、ほとんどいっぱいだと思います。

○表委員 いっぱいで既に飽和してしまっているのですか。

○事務局 時間帯が1日三つしかないものですから、ある一定以上ふえないのです。ほとんどこれでいっぱいです。

1カ月前からではとれないので、2カ月前から予約をとらせてほしいという声もご意見箱に入っていました。

○中島委員 質問ですが、概況のところの個人の利用登録というのは、どういう方なのでしょう。

○事務局 いろいろな方がいらっしゃいますけれども、例えば、最初は一人で日本語ボランティアをやっていらっしゃる方が、ここを使って外国人に日本語を教えたいとか、あとは、結構多いのは、市民活動のネットワークづくりを一人で始めてみたいので、パソコンコーナーを使って調べものをしたいとか、そういう方が多いです。

○表委員 知り合いの団体に利用している内容を聞きましたら、この会議室だといっぱいなので、環境プラザの方にも登録しておいて、あちらだとまだ少ない。結局、名目を書いて複数に登録して、とれなければあっちでとるという使い方をしているそうなのです。しかし、会議ブースは市民の目から見たら一つなのです。だから、空いているところを融通して、より多くの団体がいろいろな目的で使えるようにして、縦割りではなく、より効率的にスペースを使えるようになればいいと思います。多分、環境プラザよりもこっちの方がずっと込んでいると思うので、そこら辺の渋滞緩和というか、より効率的に利用できるような形を考えていただきたいと思います。恐らく、そういう要望は挙がっているのではないのでしょうか。

○事務局 環境プラザは条例に基づいた事業を展開してしまして、逆に言うと、使えるのは環境プラザの趣旨、目的に合致した団体ですので、そういう意味では制約もあります。

○表委員 それでしたら、1階の情報センターのように中立的な場所にしてはどうでしょうか。市民活動サポートセンターという枠を返上してしまって、4団体合同の場所という枠組みにして、みんな自由に使えるとか、そういうことをどこかで考えていただけたらなと思います。そうでなければ、このスペースでこれ以上団体がふえたら、皆さん、だんだん窮屈になると思います。

これは、あくまでも要望です。

○事務局 おっしゃるとおりでして、去年の9月に四つの複合施設として立ち上がりまして、そういう問題をどうするのかということはずっと引きずってきているのです。使う側の見方と、施設を運営していくための考え方とのギャップが埋め切れておりません。ただ、今おっしゃられたように、ここの施設を利用される方には、環境のコーナーだろうが、市民活動のコーナーだろうが、同じ使い勝手でしょうというふうに見られてしまいますので、その連携をどうしていくのか。究極的には、四つの施設を一つにして、管理体制を一つにしていく、そのような考え方を志向していかなければならないだろうと思っています。

ただ、いかんせん、縦割りの壁を破り切れていない部分があります。課題認識はしてい

ますが、どこがイニシアチブをとってそれをやるかという問題もあります。消費者センターの部分の色がほかと違うところもあるかもしれませんが、そういうことも含めてどういうふうにしていくのかということがここ一、二年の課題だろうととらえております。

○事務局 確かに、外から見ると、札幌市の施設ということで同じように見られます。いろいろな課題もあります。今できるものとしましては、4施設の課長、係長会議を定期的を開いて、この1年間を振り返って、見直していかなければならない課題がありますので、その中で問題提起しながら、変えられるところはどんどん変えていって、市民の方の利便性が今以上に増すような形で我々も努力させていただきたいと思っております。

○事務局 今の体制として、この施設には課長職が2人常駐していきまして、日常の工夫のできる部分もあると思いますので、そういったところから入っていけばなと考えております。根本的にということになると、予算の話になっていってしましまして、最初からそれを想定すると小回りがきかなくなってしまうので、ですから、日常の中でできるところから少しずつやっていけばなと思っております。

○岩見コーディネーター これは、ぜひ何とかしてほしいですね。

○溝渕委員 私もスペースの問題が出てくるなという感じがしています。今年は議論だけだと思いますけれども、将来的には、外にも出ていかなければならないと思いますので、まちづくりセンターをランチのような形で活用していく方法も考えられると思います。そして、それをコーディネートしていくのがここになるのかなという気がしています。それによって、パイがかたまっているから分割できなくなるという問題が解消されていくのかなと感じました。

今、問題として出ているのは、表委員さんから出されたブースの数が埋まってきているということだけですが、それ以外に大きな問題になりそうなことはあるのですか。

○事務局 施設面といいますか、スペース的な問題については、まだ1年たたない状況なので、さらにこういった部分を、ああいった部分をというようなニーズはまだないかなと思っております。

ただ、今、溝渕委員がおっしゃったように、これから、ここを核としながら全市展開していくその仕組みづくりをどうするかという問題があります。その一つとして、まちづくりセンターというものが考えられますが、旧連絡所という枠の中で、過去のしがらみと言うとおかしいですけれども、その脱皮をどうしていくのか、今、そのところで模索している、もがいている状況です。

それから、行政としてこういう枠をつくりましたからどうぞというような持っていき方も求められるかもしれませんが、全市に共通するようなつくり方はなかなか難しいので、やはり、その地域地域で声を上げていただいたら、それにこたえるような体制で動いていこうと考えています。今はそういう状況だと思っております。

○岩見コーディネーター 今、溝渕委員は非常に重要なことをおっしゃったと思います。これから、これだけのまちで市民活動をどう延ばしていくかというときに、ここだけでは

限界があるわけです。もう一つは、まちづくりセンター構想があります。まちづくりセンターは八十何箇所あるわけですから、あれがネットワークして、ここが拠点となって、うまくコーディネートして、枝を広めていくということは、これからの札幌にとって非常に意義のある、また拠点となるものがある札幌だからこそできることだと思います。ぜひ、そこら辺はこれから考えてほしいと思います。

○事務局 区によっては、センターを視察に来て、自分のまちづくりセンターでレターケースを置いたりというように、うちの事業を見ながら行動している例もあります。

○岩見コーディネーター 早く連絡所のイメージから変えていってほしいと思います。

○表委員 市の施設だと3年たったら出て行ってほしいということは当たり前ですけども、今度は恒久的な事務所の持ち方を相談員レベルでアドバイスしていただくとか、賃貸するときの保証をどうするとか、そういうものも補完機能として必要ではないかと思います。

思いつきなので全然精査していませんが、例えば、少子化が空き校舎ができたとして、小さいな区画割りをして事務所として安く貸し出して、そこはきちんと家賃を払っている限りはいつまでも使っていから頑張ってみたいな話とか、ずっと使える事務所をみんな求めているはずなのです。けれども、通常の賃貸で1万がいきなり10万になってというのは余りにも厳しいので、市民団体が恒久的な事務所として使えるものに対する選択肢があればいいなと思います。

○事務局 市民活動、まちづくり活動の中で、学校の空き教室の活用ということは、常にいろいろなところで言われてきています。教育の方の考え方もありますので、頭から空いているからどうぞとはなかなか言えないのです。それともう一つは、小人数学級の取り組みの動きがありますので、全学校で小人数学級の取り組みをしていくとなると、今の空き教室では足りないくらいのスペースが必要になるという見方もあります。

そこで、今、皆さんの意見を聞きながらやっていきたいと思います。4校の統合がありましたので、豊水小学校の跡をどう使うのか、そういった視点での活用ができないかということも含めてこの1年間で議論していきましょうということで立ち上げをしております。その中で、そういったご意見を反映できるような施設づくりができるかどうかを検討していけるのではないかと思います。いきなり全市で同じような形でスペースを確保するのはなかなか難しいかもしれませんが、まずは可能性があるところからやっていくということは具体的に考えていかなければならないと思っております。

○表委員 民間主導で一個でもモデルケースが立ち上がるというのはおもしろいと思います。それを見たほかの民間の方が追随して展開できるとかね。市が一個のモデルをやると、結局、市がずっとやらなければいけないのです。

○安田委員 今のパブリックな空間ということで考えると、今までは全市で一斉にという考え方だと思いますけれども、そこを少し緩めてもいいかなと思います。まちづくりセンターも、全市一斉にまちづくりセンターというのはもう前の時代の話であって、まちづく

りセンターの空間自体もそれぞれ違って、会議室がないところもあるし、会議室が新しくできていたりするところもあります。それから、小学校だけではなくて、民間の中の空間を公共的に使うような仕組みですね。例えば、商店街の空いているところとかね。公共施設だけではなくて、中間になっているようなところも含めて考えると、札幌の中にいろいろなところを生かせるかなと思います。

○表委員 狸小路にも空きがありますからね。

○安田委員 例えば、北区はそういうことをやって、西区はまた違うことをやってという形でもいいのではないかと思います。それがまちの活動とか住んでいる人たちに合う形であつたらいいと思います。

先ほどまちづくりセンターの方が見学に来ているという話がありましたが、そういうのはいいのではないかと思います。やってみたい人たちが見学に来て、自分たちの地域に合った形にアレンジしたりしてちょっと違う形で始めると。ですから、市の方には、違う形でやっても行政の範囲でできるくらいの度量というか、そういうものが求められるのかもしれない。

○表委員 地域主導とか、やりたい人主導ということですね。

○安田委員 そうです。これまでのように、10区全部同じやり方でというのはなかなか難しいと思います。

○岩見コーディネーター それでは、次の情報収集に行きましょう。

説明をお願いします。

○事務局 情報収集提供に移ります。

市民活動団体に関する情報や市民活動に役立つ情報をさまざまところで提供するというので、主に五つの手段で情報提供を図ってきました。

まず一つ目は、ホームページによる情報提供ということで、センターの施設事業に加え、市民活動に役立つ情報や市民活動団体に関する情報などを提供する。また、エルプラザの情報システムを活用し、市民活動団体の情報などを市民に提供しております。

A3の資料にホームページのトップページをコピーして張ってありますが、最近、協議会の意見で、助成金や各種相談窓口、情報配信メディアや保険に関する情報が一覧できるといいということで、3月末にNPO法人のボラナビ倶楽部に委託して、お役立ち情報の充実ということで、助成金情報や相談窓口情報などの各種情報をまとめて掲載させていただきました。

それから、市民活動団体のPRとしては、活動PR欄情報の充実ということで、400字くらいで活動をPRする情報の欄があつたのですけれども、ほとんどの団体が未記入状態でした。それで、案内を出しまして、さらに二、三百くらい載せさせていただきました。

それから、写真でわかる活動紹介ということで、市民活動団体の皆さんに写真を募集したところ、市内の約150団体から返事がありまして、そちらも載せさせていただきました。視覚的にも団体の活動がわかりやすくなったと思います。

今後も、さまざまな形でホームページの内容の充実を図っていきたいと考えております。
続きまして、情報誌です。

センターの事業に加え、市民活動に役立つ情報などを提供する。年4回程度で5,000部発行し、市内公共施設や地域のまちづくり拠点などで配布ということになっております。

A3の資料ですが、今までに第3号まで発行しておりまして、創刊号は、まさしくオープンまでの経過を説明したり、センターの施設をわかりやすくガイドしてみたりしました。

第2号に関しましては、センターがオープンしてからどんな感じだったのかということで、利用者数の推移や、オープニングイベントや、2号発行時点までに実施した講座などの内容を紹介しました。

そのときに、協議会の方から、郵便局や地域活動拠点で配布するといいというご意見が出ましたので、市内の郵便局にも置いてもらいました。あとは、地域活動拠点ということで、まちづくりセンターやちえりあ、市内の各関連施設にも配布しているところでありませう。

3号からは、市民の視点をより取り入れて作成した方がいいのではないかという意見を踏まえまして、市民活動に関心のある学生のボランティアさんに入っていて、取材活動などを行って作成して、発行されているところです。

紙媒体の特質を生かして、今後とも内容を充実させていこうと考えております。

その他ですが、メールマガジンも発行しております。センターや市の事業の紹介に加え、助成金情報など市民活動に役立つ情報を提供するというものです。発行頻度は月に一、二回程度ということで、現在、購読者数は約430件です。実際の登録は500件以上あるのですけれども、メールアドレスの間違い等で届かないところがありまして、実質はこれくらいの数になっております。

各自に直接届き、ホームページへのリンクも張れるというメールの特質を生かして、効果的な情報提供を行っているということで、第12号まで発行しております。

最新の助成金情報を、センターに届いたものからピックアップして、掲載許可をとりまして、掲載させていただいて、タイムリーな情報をお届けできるようにしております。

続きまして、図書ですが、先ほどお話ししていましたが、1階の情報センターに市民活動関連図書を1,200冊配架しておりまして、自由に閲覧や貸し出しを行っております。図書に関しては、購入規模を把握しながら、適宜、購入を進めているところです。

最後になりますが、掲示コーナーは、先ほど、掲示板を増設したという話もありましたが、市内の市民活動団体のチラシやポスターを掲示させていただいております。

情報収集提供に関しては以上です。

○岩見コーディネーター いかがでしょうか。

○安田委員 ホームページですけれども、更新の頻度はどれくらいですか。

○事務局 タイムリーに更新することを目指しています。

○安田委員 タイムリーというのは、週1くらいはやっているのですか。

○事務局 その時々です。3月に抜本的に更新しましたが、あとは、センターから事業があるときのお知らせという感じでして、今のところ、毎週1回という形では更新していません。

○安田委員 ホームページと情報誌で情報提供となっていますけれども、ホームページというのは、情報提供だけではなくて、もう少し相方向性が生かせると思うのです。一方だけだけではなくて、問い合わせのページもあったと思いますけれども、何か入ってきて、それに対してどう答えたかとか、インターアクティブな形で情報が提供されていますか。

○事務局 メールアドレスは入ってまして、最近、メールでの問い合わせが多いです。

○安田委員 それにどう答えているかということです。よくある質問のQ&Aとか、そういうものですね。

それから、施設の利用者の意見というのがありますが、それとホームページなどがリンクされている仕組みはあるのですか。

○事務局 今はないですね。センター利用者の方には回答していますけれども、それをホームページで出すということはしていません。

○安田委員 何かもったいないなという感じがします。

○表委員 ちょっと違う話なのですが、例えば、ホームページとか情報誌の発行というのも、登録している市民団体に入札で1年間委託契約するとか、そういう方向もあり得るのでしょうか。

市民活動団体が正当な報酬を得る方法ですね。市などが委託事業を進んでやっていただくことでより自立できるようになると思うのです。多少の失敗はあるかもしれませんが、安心できる場所に頼むばかりではなくて、収入を得るチャンスと、こういうことを委託されることで頑張って活動するモチベーションというか、何かチャンスが与えられたらいいなと思います。

○岩見コーディネーター 公募でやった方がいいのではないかという話ですね。さっきのボラナビの話もそうですね。

○表委員 それもそうですし、セミナーの講師もそうです。有償ボランティアで、きちんと講師料を払うので、やれる人は手を挙げてくださいというような仕組みとかね。きちんと報酬を得られるチャンスをどんどんふやして、それを身内で決めるというのではなくてね。

○岩見コーディネーター ほかにいかがでしょうか。

○中島委員 掲示コーナーについてですが、例えば、行政の主催で募集をかけているものですね。今回の事業運営委員とか、市計画審議会の委員とか、ほかにもいろいろな審議会等の委員募集というものが、たくさんのチラシがあそこにランダムに置かれているので、できれば、そういうものの場所は確保していただいた方がいいと思います。ここに行けば、今現在、どういう委員が募集されているかということがわかるように少し整理された方が

いいと思います。ああいうものを見て、公募委員として参加してみようという人がこれからふえていくと考えたときに、そういうチラシがわかりやすい場所にある必要があると思います。

○事務局 もともと、講座とかイベントとか市の情報という形で整理して、それ以外にもこういう形でまとめるものがあれば、いろいろ工夫したいと思います。

○溝渕委員 今、中島委員がチラシのことをおっしゃいましたが、ホームページでも市役所の大きい方には市民意見とか公募委員のサイトがありますので、そこと直につながっているとおもしろいかなと思います。

○中島委員 ホームページとそういったところとの連携がないともったいないので、ぜひ実現してもらいたいと思います。

○事務局 実は、庁内からは、市民活動団体に接するチャンネルとしてメールマガジンの方に情報を載せてほしいという話が結構出ています。庁内と市民の方をつなぐような役割も果たしていきたいと思っております。

○表委員 プレスリリースしやすいように、何月何日に主催はどこでという案内フォームみたいなものがあって、ホームページを持ってない団体でもここに書き込めばホームページに自動的に載るとか、そういうものがあってもいいのかなと思います。

○事務局 実は、ウェブシティさっぽろというホームページにイベントカレンダーがありますので、そういったところにあるということのうちから紹介していければいいかなと思います。そういった工夫も徐々にしていきたいと思っています。

○安田委員 市民活動センターのホームページから入って行って、そういうところにリンクしやすくなっているわけではないので、その工夫があるだけでも違うのではないかなという気がします。市全体のウェブで見たら物すごい情報量なので、自分の知りたいのはどこなのかと探すのが大変なのです。

○表委員 検索をもう少ししっかりやってほしいと思います。検索しても、思ったところが出ないので。

○安田委員 逆に、市民活動サポートセンターから入ったら、関係がありそうなところとリンクされていて、そのリンクで見えて行って入っていくことができると使えらると思います。せっかく情報のツールがいろいろありますから、うまくやると、もうちょっと使い勝手がよくなると思います。

○表委員 情報量をふやすと大変になりますから、難しいと言えは難しいのです。

○安田委員 それから、5,000部の情報誌を市内の公共施設などに配布というのは、普通によくある公共施設ですか。

○事務局 例えば、区民センター、区役所、まちづくりセンター、ちえりあをはじめとした公共施設です。あとは、中島委員からも意見がございました山鼻まちづくりハウスなどの地域拠点にも配布しております。それから、郵便局にも配布しております。ですから、我々が普通配るところよりはウイングをふやして、できるだけ地域で活動する人の目にも

とまるように配布しております。

○安田委員 でも、それがどこに置かれているかわからないのですよ。

○表委員 置いている場所を教えてくださいということですか。

○岩見コーディネーター 皆さんはごらんになりましたか。

○表委員 本当は、広報と一緒にしてくれるのが一番うれしいのです。チラシと一緒に入ってくるとかね。

○岩見コーディネーター それは大変かもしれませんよ。

○安田委員 でも、郵便局が入っていたりするので……。

○表委員 駅にあると便利なのです。

○溝渕委員 大学とか、学校には置いていないのですか。

○安田委員 必ずしも公共施設に市民がたくさん行くわけではないので……。

○岩見コーディネーター 行ったとしても、いっぱい並んでいるものを一々見ないですよ。

○安田委員 郵便局は待つから見るのです。

○表委員 区役所も結構待ちます。

○中島委員 大学というのは、若い人たちがまちづくりにかかわるいいチャンスでもあるのですけれども、学生は区民センターなどにはなかなか行かないので……。

○事務局 北大のボランティア室には届けています。ですから、ほかの大学も含めて考えていきたいと思います。

○溝渕委員 大学生協でしたら結構置いてくれると思います。

○安田委員 部数をふやすか、配布場所をもう一回考え直すのかということですね。

○事務局 持って帰ってもらえるようなものと、銀行とか郵便局とか待っている間に目を通してもらおうような活用の仕方と両方あっていいと思います。配ることばかり考えると、費用の問題がありますので、そういった形で情報提供の幅を広げるという手法を工夫する必要はあると思います。

○岩見コーディネーター どこに配布したということより、市民のどれくらいがこれを読んでいるのかというあたりがポイントですね。そこら辺のチェックはなかなかしにくいと思います。ホームページならカウントが入っていますね。

○事務局 講座のきっかけとして、情報誌をごらんになったという方もいらっしゃいます。

○岩見コーディネーター それでは、次の相談について説明をお願いします。

○事務局 相談事業に移らせていただきます。

市民活動に関するさまざまな相談に対応するという一方で、日中から夜間にかけて市民活動実践者（相談員2名、非常勤1名）を配置し、その他の時間は簡易な相談であれば受付職員が対応しています。

協議会からも、新保委員に相談員を担当していただいております。

相談で受けた内容は、センターで共有し、ノウハウとして蓄積し、多くの団体に関係しそうな相談についてはホームページや情報誌で情報提供していきます。

15年度は、まずは相談の記録をノウハウとして蓄積すべきという協議会委員からの意見を踏まえまして、相談内容と回答を相談員間で共有しております。相談処理票という相談の内容を簡単にまとめたカードをつくりまして、それを保管することによって、前回違う相談員が受けた相談者がリピーターとしてお越しになったときに、話が通じやすいように情報を共有していくという工夫を行っています。

それから、どのような方が相談を受けるのかわかると相談しやすいということで、前回の協議会でお配りしたと思いますが、黄色いパンフレットをつくって区役所とか区民センターに置かせていただきました。

それから、よくある相談を情報提供すると役立つということで、情報誌に相談の情報を掲載していくということで、前回の第3号から相談員のコーナーをスタートさせまして、よくある相談を紹介したり、発行時期に合ったお役立ち情報みたいなものを載せていくようなことを試験的に始めてみたところです。

相談件数に関しては、グラフを見ると9月が非常に多くなっていますが、オープン当初、施設の利用の仕方についての問い合わせがあったのですけれども、それと区別しなかったものですから、そちらも含んだ数字になっております。

そういうふうに考えていきますと、最近、チラシなどの効果もあって、徐々に相談件数がふえてきているのかなという気がしています。

それから、相談の内容については、内容区分別相談件数をごらんになっていただければわかるかと思いますが、活動場所とか設備についてはオープン当初のものが含まれていますので何とも言えないのですけれども、市民活動一般に関する相談については、この方が資金の相談に来たのか、人集めの相談の来たのかということが最初はわからないことがあるのですが、その辺は相談員が、いろいろ話を伺っていく中で、それに合わせてアドバイスしていただいておりますので、何回も来られる方も出てきております。

16年度につきましては、資金調達アドバイザーということで、NPOサポートローンの実施に伴い、融資を含めた資金調達全般や財務諸表、事業計画について週1回程度のアドバイスを実施すると。センターの相談員とも連携しながら効果的な支援を行っていくということで考えております。

相談に関しては以上です。

○事務局 続いて、青いパンフレットの「さっぽろ元気NPOサポートローン」について説明させていただきます。

6月からいよいよ事業を開始しまして、かなりいい線まで行っているところが出始めています。今後、皆様が事業運営を検討する際に、ぜひ融資ということも念頭に置いていただけたらなと思います。

資金調達のアドバイザーについては、週1回くらい、北海道未来ネットという資金調達に詳しい団体に委託して、相談業務を合わせて実施しています。資金繰り表とか、そういったものを書くのは結構大変ですので、アドバイザーのご利用をいただけたらなと思いま

す。

○岩見コーディネーター 新保委員，どうぞ。

○新保委員 この表にもあらわれていますが，最初はどうしても施設のことについての問い合わせが多かったというのが実情です。でも，最近は，印刷機のことに関して，施設の仕組みのことについても，いつもいらしている皆さんは大体ご存じなので，そういった問い合わせ自体は少なくなっています。だからといって，新しい人の出入りが少なくなったわけではなくて，人づてに聞いたとか，広報物を見てわざわざ来たとか，そういう形での問い合わせは依然としてあります。

それから，電話での問い合わせも受けます。そのときに，もちろん電話でもお答えしますが，ぜひ一度足を運んで，こちらの方を見に来ていただければということでご案内しております。

だんだん本格的な相談が出てきつつありまして，常連さんもできてきまして，ちょっとうれしいような気持ちもあります。

何かご質問がありましたらお願いします。

○岩見コーディネーター 時間とか曜日はどうなのでしょう。

○新保委員 私は月曜日に1時から夜の7時までいるのですが，いろいろな方と話をし，しゃべり続けて仕事が終わるといふこともあるくらいです。それは，印刷機の使い方のご説明をしたり，相談を受けたり，いろいろな場面があります。ぼーっとしているようなことはなくなってきました。

それから，月に1回くらいを目安に，受けた相談の内容に関することや，出入りしているお客さんの利用状況とか，そういったことについて内部で情報交換や勉強会を行ったりしております。

○表委員 質問があります。

資金調達とか，どの団体がどんな相談に来たとか，人名とか個人名が出るものに対する情報のセキュリティーはどうなっているのでしょうか。税理士さんなどは職業的にも義務がありますけれども，それを補完するような，一般の方が相談をされるときに秘密保持契約的なものをきちんと交わしているかとか，個人名が出ることに対する情報ルールとか，そういうものはどうなっているのでしょうか。

○事務局 相談員の方に相談マニュアルというものを用意しておりまして，その中で個人の取り扱いについてもお願いしております。契約ではなくて，遵守事項という形ですけれども，そういったことを了解いただいた上でお願いしております。

○表委員 それは，契約の形にできないのでしょうか。守らないことを疑っているわけではないのです。ただ，何かあったときに，契約しているかどうかということは非常に大きくなります。逆に，相談員になれるような方でしたら，わざわざ言わなくてもわかっていますので，一々言う必要はないと思います。うまくいっているときは全然問題ないのですが，何かトラブルがあったときにきちっと対処するために，予防策としてあらかじめ考え

ておく必要があると思うのです。特に、これからいろいろな団体が絡んできて、お金のことも絡んでくると思いますが、何かあってからでは遅いので、事前に想定しておく必要があると思います。

通常、企業同士だと秘密保持契約を交わします。別に疑うわけではないのですが、一応のルールとしてやっておきましょう、そうすることでお互いに心の底から安心してやれますね、万が一何かあったらこういうルールでお互いに紛争を解決しましょう、そういうものがあって初めて安心した関係が維持できるのです。

そうしておく、市民の方から問い合わせがあったときも、大丈夫です、うちの相談員はこれだけの契約をしているのですと胸を張って言えるわけです。これはすごく大きいことだと思います。ですから、一度、そういうことを考えていただきたいと思います。

○中島委員 守秘義務というのは契約に部類するもので、マニュアルとはちょっと違うと思います。マニュアルというのは、委嘱された後にこのマニュアルどおりにやってくださいというものだと思うのですが、札幌市でも民生委員とか準公務員に類する方々に委嘱するときは守秘義務というものが出てきます。それは、委嘱、委任するときに契約としてあった方がいいのではないかと私も思っています。ですから、もしされていないのであれば、しておいた方がいいのではないかと思います。相談員の立場を考えても、それは大事なことでないかと思えます。

○岩見コーディネーター 今のことに関して、市の方で何かありませんか。

○事務局 検討します。

○新保委員 現段階では、パソコンの画面の中にカードが入っていて、そこで打ち込みをしたり、それをプリントアウトして閲覧したりするのですけれども、相談員各人が高い意識を持っておりまして、表を向けなくて下を向けて引き出しの中に入れてよいか、日々の心配りがありますので、今のところはお安心ください。

○安田委員 このごろは厳しいですよ。調査でも、契約にびしっと入っています。自分のミスではなくてデータが流れたりとか、いろいろなことがあるでしょう。ですから、うちの場合は、契約もしていますし、人を採用したときは必ず言いますし、雇用契約書に一文入れますし、もう当たり前になっています。時間どおりに出勤していただきたいと言うのと同じような感覚になってきています。

○表委員 最近、会う前に秘密保持契約を交わしてからでなければ会いませんという話になったりするのです。ですから、意識が変わってきていると思います。

○事務局 委嘱でやる形態と、契約書を取り交わして契約するという形態と、やっていた業務の性格でそういうものがなじむのかどうかという整理も必要な部分が出てくると思うのです。

守秘義務ということで、一番はつきりわかるのは、国勢調査の調査員の業務です。あれも契約という手法はとってなくて、委嘱して、守るべきもの——先ほどマニュアルという言い方をしましたが、そういう中で規定していくというやり方になってきています。

ですから、今おっしゃったように、今の時代背景を考えたときに、そこら辺の整理をきちっとしなければならないということは確かにあると思います。契約という手法がなじむかどうかということがありますけれども、そこら辺の確認をするような手法、仕組みのようなものをきちっと整理していくということは検討させていただきます。

○安田委員 全然違うことですが、相談員のコラムを情報誌に掲載するようになったというのがありましたね。せっかくそういうものができたのだったら、これもホームページに入れられたらいいのではないかという感じがします。または、相談件数とか相談件数内訳のグラフなどがありますね。今、こういうものは公開されているのでしょうか。

○事務局 課題として残っております。逆に相談員の方から求められています。頑張っていきます。

○安田委員 すごく生き生きとした中身になりそうな感じがします。

○岩見コーディネーター それでは、交流活動支援の説明をお願いします。

○事務局 交流活動支援についてですが、市民活動団体相互の交流や市民・企業・行政の交流などをさまざまな機会をとらえ実施すると。

15年度にどのような支援があったかといいますと、まず、オープン時期のオープニングイベントですね。こちらの方には、実行委員として協議会の皆さんも参加していただきましたが、団体のブースを紹介するパネル展や、活動紹介ブースや、活動発表を行ったり、4施設共同でシンポジウムを行ったりしておりました。

それから、去年の年末ですが、事務ブースの入居団体の方から、せっかく全部埋まったのに、同じ区画で活動している者同士が顔も知らないというのはどうなのだろうかという提案がありましたので、事務ブースの活動紹介のオリエンテーションと交流会を実施しました。市民の方も何名か参加していただいて、それぞれ5分程度ですが、プロジェクターを使って活動紹介をしたり、ポスターを使ってPRしていただいたりして、終わった後は、立食パーティーのような感じで、楽しく話し合いや名刺交換をしていただきました。

ことしに関しては、センターがオープンして1周年ということで、1周年記念イベントを開催する予定です。センターがオープンしてからの1年を振り返るとともに、昨年末の事務ブースのオリエンテーションのように、事務ブース使用団体を初めとしたセンターの利用者と市民との交流を図るイベントを行う予定です。

交流事業については以上です。

○岩見コーディネーター ご意見をどうぞ。

○菊田委員 センターの1周年事業に関して、それぞれ4施設合同の企画などはあるのでしょうか。

○事務局 男女共同参画センターの方は男女共同参画の事業を従前からやっていますので、今年も同じようにやります。ですから、市民活動サポートセンターと男女共同参画センターについては1周年事業を実施しますが、4施設合同という形にはならないと思います。

○菊田委員 その辺を解消していかないと、一緒になった意味が全然ないと思います。環

境の方でも同じような意見を上げたいと思いますけれども、それは、将来、もう少し利用しやすい施設になる一つのステップかなという思いもありますので、検討をよろしく願います。

○安田委員 これは本当に難しいですね。ほかの県の話聞いていても、合同で何かするというのは本当に難しいのです。その中でもやる場合は、せめて日にちを統一することですね。それから、共通のパンフレットやチラシをつくるということです。市民の側からすれば、担当者はばらばらだとしても、一緒なのかなというふうに思うのです。

○岩見コーディネーター それは、行政の課題なのでしょうか。それとも、それぞれのメンバーの問題なのでしょうか。

○安田委員 行政でしょうね。

○菊田委員 行政の課題だと思います。

○岩見コーディネーター 例えば、消費者センターとか環境プラザの市民側の代表者がやりたいと言っても、行政側ではそこら辺は難しいということですか。

○安田委員 別に合同でやらなくてもいいのです。それぞれが1周年の何かを考えているのであれば、せめて同じ日にちにしてはどうかということです。

○菊田委員 連携がとれているとか、そういうことですね。

○事務局 私も、4月に来て、定期的に意見交換や情報交換をするという部分がちょっと足りないかなと感じています。それは、課題が何も無いようでも、顔を合わせれば、情報交換とか、あれがあったねということが出てきますので、これからは定期的にどどん話し合う必要があると思います。お祭りだけではなくて、今後の運営も含めて連携を密にしていきたいと思っています。

今は、4施設といっても、縦割りの中で動いている部分もあるものですから、できるだけ垣根を低くするように努力していこうと思っています。

○中島委員 私は、合同のイベントというよりも、使いやすいようになればいいなと思っています。例えば、講座企画などは、環境プラザ主催の講座、サポートセンター主催の講座、男女共同参画センターの講座がそれぞれあると思いますが、せめて講座のパンフレットは一緒につくるとかね。市民側から見れば、男女共同参画に関心を持っている人もいれば、環境に関心を持っている人もいれば、一人の人がいろいろな関心事を持っているので、1冊のものにまとまっていた方がいいと思うのです。そういう連携の仕方も考えていただければと思います。

○菊田委員 同じような意見ですけれども、環境のことをやっていたら環境のところしか使えないというのではなくて、四つの施設で一緒にできることはたくさんあると思うのです。連絡会議を持たれているのだったら、今は連絡調整が主だと思いますが、そうではなくて、一緒に何かをつくらうという接点も今後考えていただけたらと思います。例えば、環境のイベントで食べ物などを考えていったら、消費者センターも考えられるし、市民活動も考えられるし、男女共同も考えられるし、すべて入ったものを使えるのです。

去年からその話しをさせてもらっているのですが、そういう話は年度当初から起こしてもらわないとなかなか難しいと。

○安田委員 そうすると、去年オープンのとときにやった合同シンポジウムは何だったのかというところに戻ってしまうのです。あのテーマは何だったのかと。そこから全然進んでいないのです。

○溝渕委員 1対1だと、その間の線は1本でいいのですが、四つもあると6本の線を引かなければいけないので、それだけ調整が大変なのです。ですから、とりあえず二つからでもいいから、日常的なイベントでいいから、やってくれればよいと思います。

○安田委員 いろいろなことを考えると、市民にとっては使い勝手がよくなるし、調整しながら合同で少しでもやっている方が行政のコストも小さくなっていくと思います。もうそろそろそういうところに入り込んでもいいのではないかという感じがします。

○加藤委員 4施設で何ができるかということを利用者も行政もみんな一緒に考えるということを1周年事業でやってみてはどうでしょうか。

○山田委員 1周年事業のテーマをみんなで持っていったらどうでしょうか。

○安田委員 実行委員会をつくってしまえばいいのです。

○岩見コーディネーター そうですね。シンポジウムをやったのですね。

○安田委員 そうです。9月で1年たちますけれども、今の段階でこの話をまた蒸し返すとなったら、オープニングのときのシンポジウムは何だったのかとってしまうのです。全然違うものでスタートしようという感じでやって、すごく大変だったのですからね。

○溝渕委員 大変過ぎたのかもしれない。

○安田委員 ですから、ほんのちょっとでも変わってきたねという。多分、利用者が主役にならなければ難しいでしょうね。

○岩見コーディネーター それでは、研修学習の説明をお願いいたします。

○事務局 16年度市民活動サポートセンター事業をごらんいただきたいと思います。

これは、もともと皆さんで協議をいただいたものを踏まえており、柱としては、入門、応用、総合編でいこうということになっています。

前回意見をいただきたいとお願いをして、皆様からいただいた意見と、個別の事項としては、昨年の積み残しの部分、それから、たまたまサポートローンを開始するにあたって必要な研修を研修学習事業としてまとめさせていただいております。それから、3月に、どういった講座をやるのが効果的なのだろうかというのはなかなか難しいということで、市民の方へのアンケートも実施いたしました。そういうものを踏まえながら企画をしていくことになると思います。

まず、研修学習事業に関するアンケートからご説明します。

20日間で188人という多くの方からいただきました。イメージとしては、パソコン系が非常に多いですね。ただ、この真意は、講座を受けたいというよりは、センターを利用して、もっときめ細かく教えてほしいということですので、IT支援の施設や事業

などにつないでいくような形なのかなと。必ずしもサポートセンターだけで全部カバーしなければいけないということではないのかなと思っております。

あとは、ボランティアの基礎、資金づくり、イベントの企画運営、ワークショップということで、ここら辺を見ると、実は昨年やった講座はきちんとヒットしていたのだと思います。講座を運営するためのノウハウが我々になかった、あるいは、センター自体の周知がよくなかったということが原因だと思いますので、むしろ、ある程度自信を持って、必要な講座を展開していったいいのではないかと。

ただ、人を呼ぶためのノウハウをしっかりと蓄積するために、あるときだけではなくて、ちえりあのような形で、きちんとした講座のコーディネーターをお願いする仕組みがあってもいいのかなと思っています。また、企画提案で市民が主催する講座を募ってはどうかというご意見もいただいていますので、手法の部分をしっかりしながら、かつ、活動されている方が必要な講座を展開できるようにしていきたいと考えています。

昨年の振り返りをいたしますと、皆さん、センターオープンの忙しい中、協議会が主体となってイベントや講座を企画立案し、コーディネーターあるいは講師となって展開していただきました。

いろいろな議論がありましたが、総括してみると、受講者の満足度は非常に高く、手法も、座学だけではなくて、体験学習方式、参加者との双方向でやりとり、あるいは、インターンシップのようなものもありました。

また、当初は周知不足が目立ちましたけれども、回を重ねるごとに改善が図られています。リピーターの方や、コミュニケーションスキルアップ講座については、実は市民活動を全然されていない方がほとんどだったのですが、講座を受けていく中で、市民活動に興味を持たれて、参加された方の中でネットワークができたという事例もございます。ですから、方向的にはノウハウがかなり蓄積されてきていると思いますので、そこをしっかりと展開していけたらなと思っております。

実は、今年度はまだ一つしかやっていないのですが、「NPO運営の収入確保術」というテーマでやりました。昨年の反省を踏まえまして、べたなテーマで、収入確保術というのが非常に評判がよくて、申し込みは20名を超えました。当初はもっと来るのではないかと考えていたのですが、いずれも参加は十数名でした。中身的には、ポイントが明確ですので、充実した内容だったと思いますし、かつ、アンケートの方もよかったので、今まで経験してきたノウハウを今後の講座の企画に生かしていきたいと考えております。

以上です。

○岩見コーディネーター ご意見をどうぞ。

○表委員 このアンケート結果を見ると、パワーポイントとプレゼンテーションというのは足していいと思います。パワーポイントというのはプレゼンテーションツールなので、それを足すといきなり1位に踊り出してしまう。どう発表するかで悩んでいるということが透けて見える感じなのです。

それから、ホームページをつくる、パワーポイントを使う、プレゼンテーションするというのは、自分たちの団体をどうアピールするか、どう見せるか、人前でどう語るかというあたりで、他の人がパワーポイントを使っているのは見るのですが、いざ自分でやると意外と敷居が高いということがあるのかなと思います。IT講習会に行きなさいという気がしないでもないところはあるのですが、ちょっとやりたいことが違うのかなという気もするのです。ここにすごく大きい需要があるなということを感じます。

○事務局 パソコンだけではなくて、去年に溝渕委員がやっていただいた図解で自分の事業を紹介しようという講座をまたやってくれと言う強烈なファンがいまだにいるのです。やはり、きちんと考え方をまとめて、それを紹介していくということに対する需要は多いと思います。

○表委員 逆に言うと、知らない人からは要望が上がらないのですが、実を言うと、パワーポイントとかホームページをつくるために、皆さんはマイクロソフトのオフィスを買ったりしているのです。皆さんがぱっと考えるものは割と有料のツールなのです。今は、無料でもいいものがたくさんありますので、そういうものを使っていかにコストを安くするかという手法をこういう講座に織り混ぜて紹介できるといいなと思います。

オフィスとほとんど同じ機能で、場合によってはそれよりいい機能で無料のものがあるのです。ウインドーズで動くものでね。知っている人はそういうものを使うのですが、知らない人は知らないままで、当然、こういうところには載ってきませんので、そういうものをどこかでご紹介できるといいなと思います。専門的な立場からそう思います。

○事務局 必ずしもサポートセンターだけで提供するわけではなくて、市民情報センターというIT支援施設もありますので、トータルで……。

○表委員 ですから、ちょっとくくりが難しいのです。産業振興センターで似たようなことをやっているのではないかとと言われるとおしまいなのですが、それはテーマをどこに設定するかなのです。ホームページ入門でも、つくるノウハウを教えるとか、それを使ったコミュニケーションというテーマとか、簡単につくれるとか、ただで使えるとか、どうやってアピールするかとか、テーマを絞ることでやれることはあるのではないかと思います。

○事務局 今、アンケートをいろいろ分析しておりますが、回答をくれたのは、事務局代表の方と個人の方で半々くらいだったのです。やはり、代表の方はマネジメント系の話を期待していますが、個人の方は、パソコンもそうですけれども、ボランティアとか、そういった情報を期待しています。我々も、講座を織り込んでいくときには、相手をしっかり見据えて、そこに伝わるような伝え方が大事なかなと思います。

うちのメールマガジンも、代表の団体の方が登録の際にあわせてここに登録してきますので、むしろ団体で実際に活動されている方へ情報を伝えていくというところが十分ではないのかもしれない。

それから、希望する時間帯ですが、一番は夜間ですが、年配の方ですと、平日の午後みたいなものも必要だと思いますので、顧客に応じた形での企画提案ができればと思ってお

ります。

あとは、必ずしも研修学習機能だけでカバーする必要はないので、個別に相談で対応すべきものもあるでしょうし、これを見ても、個人対応というのが5番目に多いので、センターがトータルで市民のニーズに対応していきたいと思っております。

○溝渕委員 今、男女共同参画センターさんが管理している市の主催で使えるOAの部屋の使用率は結構高いのですか。

もし空いているのであれば、ITというのは個人的な作業が結構多いので、フリーゼミというか、その時間帯にだれでも行って質問して帰れるような講座のやり方があるのかなと思います。

○安田委員 それから、グループで5人集まって、こういうテーマで開いてほしいと申し出たらやってあげるとか、そういうことがあってもいいと思います。これは、小人数のゼミナール形式で76人の希望になっているでしょう。

私はテニスをやっているのですが、何人か集めたら、個人レッスンではなくてグループレッスンになっていくのです。それが結構いいので、こういうふうにとれるとニーズに対応できるかもしれません。

○表委員 これは、受けてみたい講座内容とリンクしていると思います。パソコンを習うのに、会議室みたいなところで座って聞いていても絶対にわからないのです。IT講習会というのは、先生がいて、アシスタントが1人か2人つきますね。それくらいの体制でやってもらわないと自分ではわからないとか、わかりにくいところがあるのではないかと思います。資金繰りも、個別に質問しながら聞きたいですよ。

○安田委員 資金繰りだったらなかなか質問できないということがありますので、金額がここからここまでという疑問を書くシートがあってもいいかなと思いました。

それから、年齢を見ると、30代までが65人いるので、思ったより年齢がちらばっていると思ったのです。

活動していない人が25人参加していますが、この後はどうしたのかなというところを知りたいですね。

○表委員 私はシニアネットさんと縁があるのですが、今は400人くらいの団体になっているのです。50代以上の方がパソコンを教え合っていたり、ITリテラシーもとても幅があるのです。でも、そういうところで講座をやっているときもあるのです。ですから、すべて市でやるのではなくて、ほかでこういう講座もやっていますというふうに、団体紹介と絡めた講座の紹介があってもいいかなと思います。

結構、自主的にやっていますよね。

○岩見コーディネーター やっています。

特に、シニアの場合は個別でないとなかなか覚え切れないのです。

○表委員 でも、シニア同士でやっていますからね。

相性もあると思うので行けとは言えませんが、ご紹介するというのはいいいと思います。

○田村委員 このアンケートは、この施設を利用している人に対してとったのですね。

○事務局 そうです。

○田村委員 研修学習事業の去年の反省を言うと、人が来ていないのですよ。だから、来ている人にアンケートをとるよりも、ここに来ていない人にアンケートをとらなければ意味がないかなと思います。

○事務局 これは、一番お金をかけない簡易な手法をとったのですが、まず全体の傾向を分析してみようと。我々はニーズをつかまないと講座をやったのではないかと思いましたが、まずは簡易な形でアンケートをとらせていただいたのですけれども、いろいろな形でニーズ把握が必要だと思います。

○田村委員 ここに来ている人は、そういうことに興味があればどんどん入ってくるわけですから、そうではない人を呼ばなければならないと思うのです。同じ人たちが交流していくのもいいのですけれども、新しい人がどんどん入ってこなければならぬということがわかっている以上——これをもとに話し合いをするのもいいのですが、それとは別の外の資料というか、実際に呼びたい人の資料が必要だと思います。

○事務局 例えば、どういったことをイメージしておられますか。

○田村委員 例えば、アンケートをとるのだったら、ここに来ない人にアンケートをとらなければいけないと思うのです。例えばの話ですよ。ここの前を素通りしていく人たちです。

○事務局 なぜここに入らないかという意味ですか。

○田村委員 そういうことです。

これはこれでいいと思いますけれども、いろいろな人を呼ぶということが重要なわけです。去年の合同シンポジウムにしても、人が全然いないし、役所の人が多いし、何のためにやっているのかなと思うことが多いのです。

○安田委員 合同シンポジウムは結構来ていましたよ。結構埋まっていました。意見もいろいろ出まして、中には大変な意見も出ましたけれどもね。

○田村委員 それは私の印象だったのですが、人が来ないというのは大問題だと思います。その理由づけとして、PRが悪かったとか、周知不足がどうのこうのと言っていますけれども、そこだけではないと思うのです。問題の把握の仕方がちょっと違うのかなと思います。

○岩見コーディネーター 今、田村さんがおっしゃったのは、研修の問題というよりは、札幌市民の中で市民活動をどうふやすかという全体的な視点で意見を出してもらった方がいいと思います。

○田村委員 研修学習事業に参加してくれる人が全然少なかったわけです。ということは、そのパイをふやさなければならぬわけだから、ここに来ている利用者だけにアンケートをとるのではなくて、もっとほかのデータできちっと把握していく方が効率的なのかなと思ったのです。

○表委員 考え方によると、市民活動を全くしていない人にアンケートをとるよりは、やっている人にアンケートをとった方が、市民活動をすればおのずと必要になることが出てくるのです。

○田村委員 これがだめだということではなくて、本当に必要なのは、市民活動というのは何だろうかという人も含めて、本当にエルプラザの存在すら知らない人もまだいるので、そういう人たちの足をどうやってこちらに向けさせるかということが重要ではないかと思ったのです。

ですから、これはこれでいいのですよ。これを批判しているわけではありませんが、何人かしかいない講座もあったので、それは利用者の絶対数をふやした方が可能性が高まると思いますし、人が注目して、ここの講座を受けてくれる人がふえるのかなと思ったのです。

○事務局 目を向けさせるという意味では、先ほど情報提供のところ安田委員や溝渕委員からお話が出ましたけれども、公共施設に置くのが本当にいいのかという議論もありました。そのあたりの方策をもう少し考えて、駅とか大学とか、そういう中で人を発掘してこちらに目を向けさせると。その結果、その方が来ていただいて、市民活動というのはこんな活動をしているということがわかって、こういう講座があるからどんどん受けようかという発掘になっていくのかなと思うのです。

いろいろと議論があるところだと思いますが、まずはそのあたりからやっていって、まだ課題は残っていますので、そういうことも含めて、これからますます人を呼び込むように努力していければと思っています。

○田村委員 別にこれが悪いと言っているわけではありません。

○安田委員 エルプラザの4施設を利用してくれる人がふえるということと、研修の受講生がふえるということが一致するというのはちょっと違いますね。研修自体も、ニーズに合わせてということが出てきますけれども、まだエルプラザ自体も知らないし、市民活動も知らない人に向けてどんな研修が必要ですかというのは、私はちょっと無理があると思うのです。

○田村委員 そういう人たちに合ったアンケートのとり方をすればいいのではないのでしょうか。

○安田委員 調査をやっている人間として、そういう人たちは、母集団が全然固まっていないのです。そういう人たちに対して調査するのは不可能なのです。

○田村委員 そこをあきらめるのだったら本当に意味がなくて、そこを掘り返すことが重要な仕事だと思います。

○安田委員 田村さんが全然知らない建物の前を歩いていて、アンケートをしませんかと言われたら答えますか。

○田村委員 時間があれば協力したいです。

○表委員 どんな講座がいいですかという質問は私も無意味だと思います。そうではなく

て、市民活動サポートセンターを知っていますか、市民活動に興味がありますか、どうい
うことがあれば興味を持ってくれますかという質問から始めなければいけないと思うので
す。

○田村委員 それはいいのではないですか。このアンケートを外でとるということではな
くて、研修学習を受ける人をふやすためには、実際に利用しているだけではなくて、この
施設を知ってもらう必要があります。知ってもらうためには、こういう内容をやっていま
すということがわかるものでなくてもいいのです。最初の取っかかりになるようなもので
すね。そのために、ほかの人たちがどういうものに興味を持っているかということがわか
るだけの資料でもいいと思います。

○安田委員 そういふふうになると、このビルの前を歩いている人は無理な話で……。

○田村委員 今、急に言われたら、それくらいしか思いつかないので……。

○安田委員 そうなると、講座とちょっと違ってくるのです。もっと大きく言うと、全
市民に対してとるといふくらいにならないと意味がないのです。それでやったとしても、
その人たちがここまで足を運ぶかどうかはまた別な話です。ここではなくて、区民センタ
ーに行きますとか、うちはちえりあの隣なのでそっちに行きますとか、それでもいいわけ
でしょう。

○田村委員 それでもいいのではないですか。

○安田委員 田村さんが言っているのは、研修の出席者をふやすために何かやりたいとい
うことなのですか。

○田村委員 違います。研修の出席者をふやすために、この施設の利用者をふやすわけ
ですね。そして、研修を知ってもらわなければならないわけです。あそこに紙を並べてい
ても、あそこを通る人が何人いるのか、あそこから紙をとってくれる人が何人いるのかとい
うことですね。その絶対数をふやさないことにはふえていかないのではないかと思ったの
です。

○安田委員 それは逆かもしれませんよ。

○表委員 毎日サポートセンターに来て研修をチェックしている人のニーズからすくい上
げることが充実した研修の発展になると思うのです。知らない人が来てくれるとい
うのは、その前段階で、知らない人が来て、エルプラザを使うようになり、こういう研修
があるのか、それでは物足りないというアンケートをまた吸い上げてフィードバックして
いくという話だと思うのです。ですから、来てもらうということと講座までの間にワン
ステップあると思うのです。

○安田委員 最初は一休みするために情報コーナーに入ってくれてもいいのですよ。それ
から、本を読もうかなと思ったり、チラシを見たり、上に何があるのかな、行ってみよう
かなと思ったり、そういうきっかけでいいと思うのです。一番最初というのはそういうも
のなのです。その中から、イベントに参加しようかなとか、知り合いができたから研修に
参加してみようかという感じで、人間の流れは一気に行かないと思います。みんなが田村

さんのような行動派ではないから、何回か来るけれども、研修までは足が向かない、イベントまでは足が向かない、でも居心地がいいから来る、そこから少しずつ始まってくるといのが大方ではないかと思ます。

○表委員 来て、掲示を見て、こんな研修ではつまらないからこんなことをしてほしいというようなアンケートをとりやすくするとか、ご意見箱にそういう意見を入れられるようにしておくとか、来た人がリピーターになってくれる仕組みを考えるとすることは必要だと思ます。

○安田委員 すそ野が広がっていくためには、そういう部分が大切ではないかと思ます。今までそういうことを知らないとか、活動している人は一生懸命かもしれないけれども、この前を通過しても、この建物は何なのかわからないという人たちが知らず知らず来るとい……。

○田村委員 それを気長に待つという感じですね。

○表委員 そういう話ではなくて、いきなり研修の話とそこを直結させるのは無理があるという話です。人が来てもらう話と研修をダイレクトにやるのは乱暴過ぎると言いたいだけです。

○菊田委員 実際に、去年の10月くらいの利用者数に比べて、その後の利用者数は確実に伸びているのです。

○岩見コーディネーター 議論が広がってきたので、研修学習事業に限って何かあれば出してください。

○溝渕委員 意見箱の意見シートというのはどういう内容なのでしょう。

○事務局 基本的に、センターに対してご意見があればどういったことでもどうぞということなのです。

○溝渕委員 今日の会議の中で、講座の企画案を1枚の様式で書いてもらって、これだったら行きますというのを張り出して、人数がたまればやるというアイデアが出ていました。例えば、環境プラザと消費者センターの合同のアイデアといいますか、環境プラザで物を直して、消費者センターでクッキングするとか……。

○安田委員 みんなで意見箱に一生懸命出せばいいのです。

○溝渕委員 そういうことも意見箱で募集できるのかなと思ます。

それから、これは3年目以降の話になっていくと思ますが、ちえりあで育てられたファシリテーターがトレーニングできる場所がないので、ファシリテーターの卵をプールしておいて、町内会などで何かイベントがあるときに派遣すると。ファシリテータープールみたいなものもこっちでプロデュースしていけるのかなと思ました。

○安田委員 企画の応募については、そういうことをやっている文化施設が本州の方にあるのです。それは、ルールが決まっているのです。応募したら何でも取り上げられるわけではなくて、応募して、協議会か何かの中でちゃんと議論し、その結果、今年やった方がいいとなったらやりますし、今年の企画の中に似たようなものが入っていたらその中に組

み込んでやります、その結果についてはちゃんとお知らせしますというやり方をしています。

ですから、さっきのご意見箱とか、1年目にやっつくったものがあるから、今ある仕組みの使い勝手をもう少し工夫するだけでも大分違うかもしれません。

○岩見コーディネーター それでは、議題（2）の総括に移らせていただきたいと思います。

今回は第1期運営協議会の最後になりまして、第2期に移っていきます。こういうことを一人でも多くの市民に経験してもらおうということで、メンバーもがらっと変わってしまうと思います。ですから、過去2年間やってきて、全体の振り返りや、次期への行政を通じての要望や、感想でも結構ですけれども、皆さんから一言ずつでもいただいて締めたいと思います。

それでは、山田さんからお願いします。

○山田委員 私どもの団体は、リンケージプラザに市民活動プラザがあったときに一番利用していたのではないかと思います。こちらの場所に移ったことを契機に、ちょっとここから足が遠のいています。

というのは、前は駐車場がたくさんありましたので、仕事の帰りに車で寄って印刷するというようなことがすごくやりやすかったのです。しかし、ここに移ったことで、駐車料金が1時間300円かかるようになってしまいました。私どものメンバーは仕事の最中や帰りに車で動く者が多いのですが、駐車料金がかかってしまいます。会議をするにしても、300円の駐車料金が私たちにはすごく負担になっています。

前に、ここに8時間いなければならなくて、2,400円払って帰ったことがあったので、どうしても、ボランティア研究センターの会議室を使ったり、道の市民活動促進センターを使ったり、駐車場が完備されているところを使ってしまうのです。

ですから、もしできれば、駐車場が2時間までは無料で、その後は料金がかかるとか、市民団体の人はちょっと安いとか、そのようなサポート体制があればいいなと思います。

あとは、印刷機とか、自分たちの使い勝手の面でしか意見を言えませんでした。それらが生かされていくのは本当にこれからののだろうかという感じがします。

○岩見コーディネーター そういう点では、リンケージプラザは便利でしたね。

○山田委員 だから、今でも行くのです。

○岩見コーディネーター ありがとうございます。

中島さん、お願いします。

○中島委員 ここの使い勝手として、10時くらいまで使えるというのは非常に効果がありまして、だんだん認知度も高まってきているなという実感はあります。

今募集をかけている次期委員の方々へのバトンタッチという意味で、私自身の意見としては、今回やった研修事業のプラン・ドゥ・チェックをみずからやってみましょうと。サポートセンターの事業に対する意見を出すことから一歩踏み出して、実施もやってみると

か、評価も自分たちでやるとか、そのようなトライアルをやってみたわけですが、常にこれから市役所が主導してサポートセンターを運営していくところがどんどんステップアップできるような、次の流れを考えた事業運営委員の役割も検討していただければと思います。

○岩見コーディネーター 今、中島さんはNPOの大同団結を目指していらっしゃいますけれども、そこら辺はどうですか。

○中島委員 サポートセンターは、さまざまなサポートセンターがあって、また、それぞれいろいろな特色があるサポート団体があっていいのだらうと思います。

市役所でやるべきこともあります。これからは、市民と行政が協働でいろいろやっていく中で、市民ができることはなるべく市民の団体の方に任せていくという発想も必要なのではないかと思います。今は、何をどういうふうに行った方がいいかということをお話してお話しできる状況ではありませんけれども、そういう芽が出てきたら少しずつ伸ばしていくという考え方が大切なのではないかと思いました。

○岩見コーディネーター 表さんが市のいろいろな事業の民間委託の話をしていましたが、市民活動団体というレベルからすれば、どこかで市民活動団体が大同団結して、それなり力をつけて、行政とも話をしたりしていくと。今、地区センターなども民間委託しているという話が出ていますが、市民側の受け入れ窓口が全然ないのです。ですから、従来型の町内会などの枠からなかなか脱していかないのです。そういう意味で、中島さんには頑張ってくださいと思っています。

田村さん、お願いします。

○田村委員 すごく勉強になりました。

次の委員の方に望むことと、この会議自体の位置づけですけれども、以前も言ったように、議事録はちゃんと記録し、公開していくと。それから、運営委員は全員公募にして、私は市民活動に参加していない人でもいいと思うのです。それは、ここの施設を利用してもらうために、あるいは、すそ野を広げるという意味でもです。全員公募にして、そういう人たちが夜を徹してでもいろいろな話をして、運営して行ってほしいなと思います。

公募委員で、やる気のある人だったら、出席率も上がると思います。委員を受けた以上、絶対休まない人がやってほしいと思います。我々も一生懸命税金をおさめているし、その税金はきちっと使ってほしいのです。それだけは同年代で頑張っている起業家の連中も含めて同じ意見だと思いますので、そうしていただければなと思います。

以上です。

○岩見コーディネーター 新保さん、お願いします。

○新保委員 先ほどご意見箱のお話もありましたが、利用者のニーズと利用されていない普通の市民の方のニーズをこれからどれだけ拾っていくか、また、拾ったものを何でもかんでもということではなくて、それを効果的にどういうふうなサービスに結びつけるかということが広がっていったらいいなと思います。そういうことを通じて、市民活動をさ

れている団体が活気づいていたり、元気になっていたりするのがここの役割の一つなのかなと考えております。

NPOが広がってくることによって、社会のNPOに対する見方が変わってくると思いますし、実際にその年その年の変化を感じます。いろいろなNPOがふえてきているということも実感していますので、これからは、NPO自体のあり方というものも、ここの施設と同時に考えていくところにあると思っています。

最後に、これは皆さん共通しているような気がしますけれども、市民の目線、視点から見れたらいいのかなと思います。

○岩見コーディネーター 菊田さん、お願いします。

○菊田委員 私も、この2年間、いろいろ勉強させてもらいました。ちょっとずつ進んでいると思います。それは実感としてあります。

ただ、今後、市民ができることがたくさんあると思いますので、市民ができることはなるべく市民に移していく必要があるのではないかと思います。条例第14条では、施設の運営管理自体も委託できることになっています。今はまだその力はないかもしれませんが、本来的には市民が管理できるわけですから、そうなるためにはどうしたらいいかということと一緒に考えていく必要があると思いますし、この協議会がそういう場になればいいなと思います。

そのために、一つは、市民ができる事業を多く委託していくということです。もう一つ、委託事業はどうしても甲乙の関係があります。対等ではありません。今は、協働事業として、甲乙の関係ではなく相談していくということがいろいろなところで進んできていると思います。それが本当の協働事業だと思うのですが、そういう道をできるところから進めていってほしいと思います。

最後に、せっかく4施設合同ですから、これも施行規則の第4条で男女共同参画センター等と連携し有機的な管理・運営を行っていくということがうたわれていますので、その方向をできるところからちょっとずつやっていただけたらなと思います。

○岩見コーディネーター 加藤さん、お願いします。

○加藤委員 サポートセンターの開館前から携わってきた私たちは、本当に暗中模索だったと思います。その中でつくってきたものを、今後、それにとられることなく、一からやるくらいのつもりでもいいなと思っています。ただ、利用者とか、市民活動をやっている人とか、市民活動をやりたいけれども、いま一歩踏み出せないという人たちのニーズに敏感である必要があると思います。

ここができる前にリンケージにあったプラザのときも、プラザはアンテナショップなのだ、市民活動のニーズをくむための場所なのだと言われながら、どんなニーズが把握されたのかということが見えないままここに来てしまったような気がしています。その辺のニーズに敏感になって、エルプラザの市民活動サポートセンターはいいよというロコミを広げていけたらいいなと思います。やはり、ロコミが一番だと思います。

また、あそこは印刷機が使えるからいいというレベルではなくて、あそこに行くと自分たちの活動のアイデアが得られる、そんな場所にしていく努力が今後必要かなと感じております。

○岩見コーディネーター 表さん、お願いします。

○表委員 私と田村さんは、基本の考え方は似ているのですが、解決するアプローチが全く違うので、意見が随分違って聞こえると思います。ただ、田村さんが言いたかったのは、身内でかたまるなということと、できレースをするなということだと思います。私もこれは大変大事だと思っています。例えば、委員は全員公募にしましょうと。確かに、私は民間委託をどんどんやってほしい、NPOにもチャンスを与えてほしいと言いましたが、陰でこそこそ決めたりしないでほしい。安心できるから知っているところに頼むというやり方は、安心で、市もリスクをとらないけれども、それでいいのかということをしっかり考えてほしいのです。リスクをとっても公募や入札をすると。余りにリスクが大きいのだしたら、出す規模を小さくしていけばいいのです。ホームページも1ページずつだって構わないのです。掲示板の更新をするのはだれだれとか、トップページの絵をかくのはプロに頼みましょうとか、全体統括はプロに頼みましょうとか、これは手間がかかりますけれども、やはり透明性と公平性を確保した上で、皆さんにチャンスが与えられるような運営の仕方をお願いしたいと思います。

○田村委員 ありがとうございます。

○安田委員 田村委員が言いたいことの通訳になりましたか。

○田村委員 そのとおりです。

○岩見コーディネーター 溝渕さん、お願いします。

○溝渕委員 私も2年前までは札幌市のことをよくわかっていなかったのですが、この2年でいろいろ仕事をしてきて、大分わかってきたことがあります。行政の方も、一人一人思いを持っていて、こういうふうにしたいと思ってやっているのに、市民や町内会から、ごみが汚いとか、こちらに収入を回せとかいろいろ言われて、お腹の中にため込んで、飲みに行かなければいけない状態になったりすることもあると思うのです。でも、特に市民活動ということで、協働ということであれば、その思いをここで出していただければいいような気がします。

今も、委員と事務局が別の場所に座ってしまして、委員と事務局という形のやりとりが多いのですが、そうではなくて、公募委員と市の職員が交互に座って一緒に話していただくくらいでもいいのかなと感じました。

特に、商品のライフサイクルのように、一番最初は力が要るけれども、上り調子で、次の時期は安定してきますが、その後に新しい手を打っていかねばいけない時期が来ると思うのです。そのときに、ここにいる職員の方が、市の職員なので腰が重たくなってしまっても、市民と普通に話がしていけるような文化を伝えていってもらえればありがたいと思います。

以上です。

○岩見コーディネーター 安田さん、お願いします。

○安田委員 リンケージのときは事務所から遠いのに結構行けたのですが、事務所まで歩いて5分のここに移った途端、来れない方が多くなってしまいました。さっき出席しない委員は出ない方がいいと言われてまして、耳が痛いところでした。

2年間、皆さんと一緒にできて、結構本音で話すことができ、楽しかったなと私は思っています。また、若い人はいいなとも思いました。それから、2年間で人は成長するのだなということも感じました。

一つ、この建物について前から気になっていたことがあります。仕事柄、この建物の前を1日に2回か3回は通るのです。この建物は、公共施設であって民間施設でありますので、エントランスの部分がパブリックとして使えるのかどうかと前から思っていたのです。なぜかという、中で幾らいろいろなことをやっても、外はしーんとしていて、にぎわいを感じられないのです。ですから、入り口の入り際というか、敷地内か、もしだめだったらドアの中か、やっていることが外に見えるような仕掛け、何をやっているのだろうか、おもしろそうだなと思えるような仕掛けをつくれたら人を呼び込めるかなと感じるのです。そうじゃないと、外から見たら、ただのオフィスビルと余り変わらないのです。私は知っているからわかりますけれども、知らなければ、これは何なのかという感じなのです。そこのところを何とかできないかなとずっと感じていました。課題だと思っています。

○岩見コーディネーター ありがとうございます。

今の言葉は、議事録にもしっかり残していただいて、行政の方もぜひ受けとめていただきたいと思います。

冒頭にも申し上げましたとおり、きょうが最後になりますけれども、多分、またいろいろなお会いすることになると思います。私も、寂しいような、ほっとしたような、申しわけないような、変な気持ちでおりますが、第1期の協議会はこれで終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

3. 閉 会

○事務局 皆様、きょうは、お忙しいところをどうもありがとうございました。

以 上